

芸術学部美術学科

永田 郁

Kaoru Nagata

美術学科 准教授

専門分野

インド美術史・南アジアの宗教美術
特に「神像」の研究

所属団体

美術史学会
密教図像学会
九州藝術学会



インドに魅せられ彷徨い、「神」という不可視の存在のありかを五感をフル活用して、感じ、考える。「神とは何か?」「人とは何か?」を。

美術史の研究は、私にとって、「いろんな場所に旅、遍歴し(彷徨う?)、人の行ってないところに行き、わくわくする「体験」(時には危険を省みず)ができるもの」です。あたまで考えるより、まずは体験し、身をゆだねることです。美的体験を重ね、フラットなものを見方を手に入れ、芸術とは?宗教とは?について思いを巡らせるのです。それはアートを生み出すのにもとても必要なことです。

PROFILE / RESEARCH ACTIVITIES

【学術論文】(最近5年間の論文・紀要)

1. 「マトウラーにおける仏像誕生の状況について—マトウラーの神像崇拜をめぐって—」『崇城大学芸術学部研究紀要』第7号(2013)(2014年3月)
2. 「アーンドラ地方における神像彫刻について—パニギリ出土の神像?彫刻の紹介を中心に—」『崇城大学芸術学部研究紀要』第6号(2012)(2013年3月)
3. 「インドにおける菩薩像の様相:ガンダーラ・マトウラー・アーンドラの比較を通して」『ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究』報告書(研究者代表・龍谷大学教授・宮治昭)(2013年3月)
4. 「スリランカにおける「パドマニディ・シャンカニディ」の作例について」『南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究』報告書(研究者代表・大阪大学名誉教授・肥塚隆)(2013年3月)
5. 「酔態図」の表現—パリーケーラー出土—「バッカス祭の群れ」を中心に」『崇城大学芸術学部研究紀要』第4号(2010), pp.103-125, 2011年.
6. 「南インド・アーンドラ地方におけるポスト・イクシュヴァーク時代のヒンドゥー教美術の様相についての覚書」『崇城大学芸術学部研究紀要』第3号(2009), pp.131-147, 2010年.
7. 「南インド・アーンドラ地方の宗教美術の様相について—「なぜ菩薩像が造像されなかったか」を巡って—」『崇城大学芸術学部研究紀要』第2号(2008)、pp.69-90,2009年.

【著作・その他】

1. 西遊記のシルクロード『三蔵法師の道』展図録,朝日新聞社 1999年.(共著) pp.294~296(図版45/54/58の解説), pp.297~300(図版79/81/83/86/90/92の解説)(写真)
2. 『時を越えた祈りのかたち アジアの心、仏教美術展』展覧会図録、名古屋ポストン美術館、2002年(翻訳共著)
3. 『シルクロード沿いの壁画資料集(Corpus of Mural Paintings along the Silk Road)』(第29回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「シルクロードの壁画が語る東西文化交流」コロキウム(in English,共著、南アジア・アフガニスタン担当[SA-1~SA-27]) 2006年、独立行政法人東京文化財研究所、国際文化財保存修復協力センター)
4. 「インドと遺跡—アジャンター石窟—」『いんさつ福井』no.243,2006年、福井県印刷工業組合、pp.7-8.
5. 『古代インドにおける宗教的造形の諸相—寺院建築と美術の成立と展開—』(平成14年度~平成17年度科学研究費補助金研究成果報告書[研究代表者:名古屋大学大学院文学研究科教授 宮治昭]) 2007年。(研究協力者として分担執筆)
6. 『華麗なるネパールの神仏—ポーバ絵画の世界』展 図録、福岡アジア美術館、2011年、翻訳協力(写真)



宗教美術に関する大英博物館シンポジウム(2008)



インド・タミル地方調査 巨大な神の乗り物(ナンティン)



宮島達男氏による柿の木プロジェクト参加(2012)



ヒンドゥー教シヴァ寺院におけるプージャー(お参り)



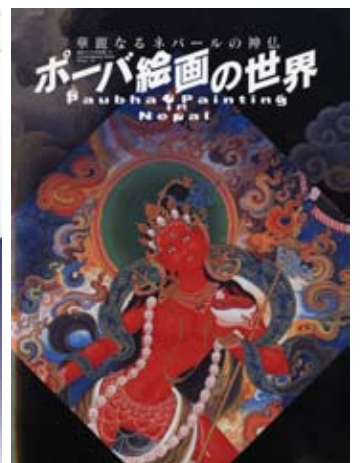
福岡アジア美術館講座(2008)



論文「美術史」(2002)



図録作品解説(1999)



図録翻訳協力(2011)